

今回は、中国のレアアース輸出規制関連についてお伝えします。

レアアース輸出規制について

[2025年の主な動き]

輸出許可取得の義務化（2025年4月より）

25年4月4日から、中国政府は一部のレアアース製品の輸出に許可取得を義務付けました。輸出自体は禁止されていませんが、新しい制度に対応するまで出荷が数週間止まり、米国の産業界などに不安が広がりました。

輸出許可の再開と緩和の兆候（2025年5月）

数週間止まっていたレアアース磁石の輸出許可が再開されとの報道もあり、世界の自動車や電子機器のメーカーにとっては朗報とされています。ただし、これは緩和というよりは、一時的な混乱が落ち着いて手続きが再開されたという意味合いが強いです。

一部レアアース磁石の輸出停止と混乱（2025年5月）

中国税関当局は、家電製品向けに使用される高性能ではないレアアース磁石の一部の輸出を停止しています。これは政府の輸出規制の混乱によるもので、企業の一部では書類を提出しても輸出できない状況が発生しています。

[全体的な背景と影響]

国家安全保障と国益保護

中国政府は、これらの措置を「国家安全保障および国益保護を強化し、軍事転用が可能な物資の拡散を防ぐ国際的義務を果たす」ためと強調しています。しかし、その背景には、米国による対中関税への対抗や、レアアースの戦略的価値をめぐる米中間の攻防があると考えられています。

サプライチェーンへの影響

中国はレアアースの多くを世界に供給しているため、この規制は電子機器や電気自動車、国防など多くの産業に影響を与えています。短期的には値上がりや生産の遅れが起き、長期的には供給ルートの見直しや代替技術の開発が進む可能性があります。

[今後の見通し]

中国のレアアース輸出規制は、引き続き米中関係の緊張や国際情勢に密接に連動して変動する可能性があります。今後も、中国政府の動向、特に輸出許可の運用状況や、新たな規制の導入について注視していく必要があります。

※レアアースとは

希土類元素の17種類の元素の総称で、ランタノイド系元素に、スカンジウムとイットリウムを加えたものです。

※レアアースの用途

電気自動車のモーターやバッテリー、スマートフォンなどの電子機器、自動車の排ガス浄化触媒など様々な分野で重要な役割を果たしています。具体的には、強力な磁石材料、発光材料、触媒、光学材料、研磨材などとして利用されています。

※レアアースの重要性

現代社会ではデジタル化と脱炭素化の進展により、レアアースの需要が急増しています。しかし、供給は主に中国に集中しており、中国の輸出規制が世界のハイテク産業や経済に重大な影響を与える可能性があります。

~~自動車業界の状況~~

世界の自動車業界は、中国産レアアース磁石の不足で数週間内にも工場が閉鎖に追い込まれる可能性があるかと警告しています。(米国)GMやトヨタなどが加盟する米国自動車イノベーション協会は5月9日、トランプ政権への書簡で強い懸念を表明。これらの元素や磁石が確保できなければ、サプライヤーはトランスミッション、オルタネーター、各種モーター、センサー、カメラなど重要な部品を生産できなくなるとしました。

(ドイツ) ドイツ自動車工業会の会長は5月3日、中国によるレアアース合金・化合物・磁石の輸出規制について、この状況がすぐに変わらなければ、生産の遅れや停止も否定できなくなると懸念を示しました。

(インド) 電気自動車メーカーも同様の事態を訴えており、一部の企業は、供給が途絶えれば7月中旬にも生産停止に追い込まれる可能性があるかと警告しています。

自動車だけではなく航空宇宙、半導体、防衛など幅広い産業で深刻な問題になっているようです。